



水稲のカメムシ対策について

カメムシ類の被害を受けた米は斑点米となってしまう、等級が落ちてしまったり、食味が悪くなる原因になります。適切な防除でカメムシによる斑点米の被害を防ぎましょう。



ホソハリカメムシ
体長9～11mm
肩の部分がすどく尖っている。

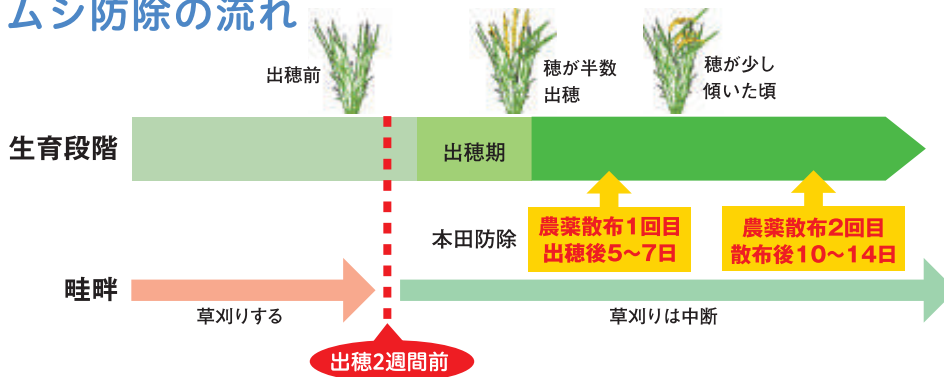


クモヘリカメムシ
体長15～17mm
羽は淡褐色で、細長い体型が特徴的。



カメムシ類に吸汁されて斑点米になった玄米
原因：茨城県農業総合センター農業研究所

カメムシ防除の流れ



草刈りは出穂2週間前まで！

- 出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行い、カメムシ類の生息地をなくしましょう。
- 出穂後に草刈りを行うと畦畔にいたカメムシが水田に移動するので、出穂後は草刈りを行わないようにしましょう。

薬剤防除をしましょう！

- 薬剤防除は、出穂5～7日後に1回目の散布を行い、1回目の散布から10～14日後に追加散布しましょう。

※粒剤・豆つぶ剤は湛水状態で使用し、散布後7日間は落水・かけ流しはしない。
※豆つぶ剤は、藻類やウキクサが多発している水田では、薬剤の拡散が妨げられるので使用しない。

■ カメムシ類に適用のある農薬の例

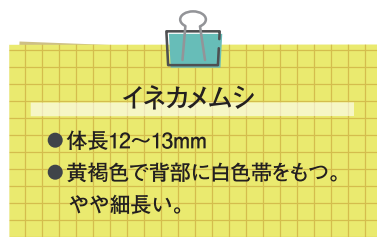
農薬名	散布量	使用時期/使用回数	備考
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで/ 3回以内	ひしゃくを使い、田んぼに入らなくても散布できる。
スタークル粒剤・粉剤DL	3kg/10a		粉剤は飛散するため、散布時は風の強さを確認する。
トレボン粉剤DL	3～4kg/10a		住宅が密集している地域では、使わないようにする。

イネカメムシが増加しています！



原因：茨城県農業総合センター農業研究所

- イネカメムシは他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期（出穂5～10日後）以降ではなく**出穂期に（穂が半分出た頃）防除することが重要**です。



イネカメムシ

- 体長12～13mm
- 黄褐色で背部に白色帯をもつ。やや細長い。

- イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、**出穂前に水田周辺の草を刈る対策で被害を防ぐのは難しい**です。農薬散布の防除をしましょう。
- イネカメムシは、**幼虫の加害能力も高い**ため、見逃さず確実に防除することが重要です。